

2019年度自己評価表

1. 学校の教育目標

新潟こども医療専門学校は、学校法人新潟高度情報学園の組織の中の一つであり、その教育理念は学校教育法に基づき「商業実務および教育・社会福祉分野において専門的な知識・技術と合わせ、教養人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた人材の育成」を目的とした教育機関である。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

こども未来学科・・・ 1年次では、学校の基本的なルールを守ることで学校に慣れる。2年次では、社会人としての礼儀・マナーの実践をとおして実習前の実践を抑えていく。3年次では、希望進路に向けた活動に意欲的に取り組むことで、多種の選択から取捨していく。4年次では、学校の模範となる学生、希望進路への就職の実現に向け最終年次としての誇りを持つ。

こども発達学科・・・ 1年次では、学校のルール、貴重品の管理、授業中の態度、飲食物の扱い、挨拶など、学校の基本的なことに重点を置き、【自立・規律】の土台を作る。2年次では、自立・規律をベースに、実習などの社会経験を積ませていただき、教員から伝えることは減少させていく（自立・規律の完成）。3年次での1年間は、個人差が顕著に現れ、現場力が高まる貴重な時間である為、自分で自分を磨く時間とし、【自律する心】を養う。

こども学科・・・ 1年次では、実践学習の核となる実習において、柔軟性をもって計画指導していきたい。「しなければならない」「すべき」ということをあまり押し付けすぎて学生が萎縮しないように、学生の現状を受け入れ、実習が学生にとって楽しいものとなるような指導を心がけていきたい。2年次では、個々に合わせたきめ細やかな指導、学習意欲と実習評価の向上に繋がるような実践的なカリキュラムを積極的に取り入れる。

医療事務総合学科・・・ 1年次では、挨拶・清掃・環境に対する意識向上、納期を守る、礼儀・マナーを身につける、目配り、気配りを心掛ける。2年次では、挨拶・清掃・環境に対する積極性、納期厳守のための余裕を持った行動、社会人として礼儀・マナーを実践、目配り、気配りを心掛ける

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は何か	4 3 2 1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 3 2 1
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 3 2 1

① 課題

専門的な知識のある実務家教員を各学科に配置し、理論だけでなく実践を多く取り入れた職業実践専門課程を存分に考慮した教育内容を実現している。各業界との連携の中で当校の教育内容がいかに周知され理解されるかがこれからの課題となる。また、卒業認定や資格取得に関しての方針の具体的に周知していくことが大切であり学生の方向性につながっていく。

② 今後の改善方策

当校の教育理念、各学科の特徴を踏まえ、ディプロマポリシーにより学修成果を具体的に学生が目標設定できるよう、またそれに付随して教育課程編成委員と連携してカリキュラムポリシー、広報と協働しアドミッションポリシーの具体化する。その際には実務家教員や企業の意見を聴取しながら進めていきたい。

③ 特記事項

特になし

(2) . 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4 3 2 1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

① 課題

学校運営を行っていくにあたって、残業や業務内容等の見直しが課題となる。また、データのバックアップについて、今までの体制に加えセキュリティ強化について考えていく必要がある。ファイルが消去したり、データが削除されたりする事案の解決に向け、重大事故につながらないように施策を講じる。

② 今後の改善方策

業務全般を見直し、効率化を目指し、働き方改革を推進する。働きやすい環境作りをすることで学校全体の潤滑油となることを期待する。また、大切なデータのバックアップの周期改善、大事なファイルデータ等またはフォルダに関し、制限をかけることでセキュリティ強化を図っていきたいと思う。

③ 特記事項

特になし

(3-1) . 教育活動 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 (3) 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 3 (2) 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育 (産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等) が体系的に位置づけられているか	4 (3) 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 (3) 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 (3) 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員 (本務・兼務含む) を確保 するなどマネジメントが行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 (2) 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

1年生は、慣れない大学の勉強に対し前向きに取り組む姿勢が見られたが、レポートの書き方で戸惑う様子がみられた。2年生、3年生は、カリキュラムに余裕がないため、目の前のことに精一杯で、何のために学習しているのか目的を見失っている。また、教員側が見通しを持ち余裕をもってかかわることができなかったことがその背景にある。

② 今後の改善方策

1年生へは、4年間の基礎つくることを意識し、より丁寧に学習の進め方やレポートの書き方を指導し、いつでも教員に相談できるという環境づくりを行う。2、3年生は今何のためにそれを行うのか、目的や必要性を提示し学生自身がよく理解したうえで見通しをもって進められるよう、教員側が余裕を持ち先々を学生に示せるよう情報共有、共通理解を図る。

③ 特記事項

特になし

(3-2) . 教育活動 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	(4) 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育 (産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等) が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員 (本務・兼務含む) を確保 するなどマネジメントが行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	(4) 3 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	(4) 3 2 1

① 課題

- ・ 学生の能力の個人差が大きいので、全体的な授業において理解するのに時間がかかる。個々に指導することが必要。
- ・ コミュニケーション方法、礼儀作法を身につける機会が無いまま進学してきている学生が多く、指導が必要。
- ・ 3年制は時間的に余裕がある為、途中で他の業界にも興味を持つ学生がいる。

② 今後の改善方策

- ・ 研修に積極的に参加したり、教職員同士の情報交換をしたりして、授業内容や指導方法を見直す。
- ・ コミュニケーション方法や礼儀作法については、『学生にとっての身近な大人』として教職員自らが手本となるよう努める。
- ・ グループ園と連携を取り、保育の楽しさややりがいを感じられるよう配慮する。

③ 特記事項

特になし

(3-3) . 教育活動 (こども学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 3 (2) 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 (2) 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 3 (2) 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 (3) 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 (3) 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 (3) 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

1年次は、講義形式の授業を中心に学習を進め、初めての実習を経験する流れの中に一生懸命な学習態度が見られる。2年次は計5回の実習が中心になるが、学校が実習間の息抜きのためだけの場になってはならない。実習での経験を学びとして実感し、昇華できるような実践的な授業構築が必要。

② 今後の改善方策

教科担当間での打ち合わせと、その内容を踏まえた体系的なシラバスの作成による授業の質の向上。

③ 特記事項

学生の満足度を上げるのならば、授業の質を上げることは必須。
シラバスに沿った授業を行うことを前提として、現代の学生や保育現場の実態やニーズを取り入れた柔軟性ある授業を展開しなければならない。

(3-4). 教育活動 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 ③ 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 3 ② 1

① 課題

以前より学生の理解度は低下している部分が見られ、毎年同様の授業では伝わらないことが多い。

② 今後の改善方策

学生の理解度をこまめにチェックする機会を設け不足点を早期に補い、学生の苦手意識を達成感に変換できるよう取り組む。

③ 特記事項

特になし

(4-1) . 学修成果 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1

① 課題

クラス全体で同じように進めていきたいと考えるが、クラス内での学生の力に差があり、個別対応が必要になっている。学力の問題だけでなく、精神的な問題を抱えている場合もあり、より一人ひとりにあった支援を考えていかなければ資格取得や就職へとつながらない。また、保育者・教育者としての適正を考えたときに非常に厳しい状況にある学生もでてきている。一人の存在がクラスに与える影響も大きいため、より一人ひとりにあった支援をしていく必要がある。

② 今後の改善方策

取得したい資格、免許と本人の学修成果を随時ガイダンス等で確認しながら、学生自身に考えさせる時間を設ける。また、個別の支援方法について考える。

③ 特記事項

特になし

(4-2) . 学修成果 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1

① 課題

- ・ 保育系を志して当校に入学しているにもかかわらず、途中で資格取得への熱意が冷めてしまう学生がいる。
 - ・ 人と関わるのが苦手な学生は、クラスの中や実習先で苦痛を感じやすく、退学を考えやすい傾向にあると思われる。
 - ・ 高校卒業までに欠席の習慣がついてしまっている学生において、進学後、本当に保育の道に進みたいという強い意志があれば壁にぶつかっても立ち直れるが、「保育じゃなくても良かった。」「親が勧めたから。」というのが進学理由であると容易に退学を考えやすい傾向にある。
 - ・ 今年度の『中学生作戦』は効果があったと感じる。グループ園との話し合いを重ね、園からご協力いただいたことにより、実習中に辞めたいと言って泣く学生が一人もいなかった。
- ※中学生作戦・・・中学生の職業体験授業のように、あまり日誌や課題に重きを置かず、まずは子ども達と共に遊んで「保育って楽しい。」「やりたい。」と思えるような環境づくりを当校・グループ園が行う方法。それと同時に、学生の個人差にも配慮し、個々の得手・不得手に対応する方法を取り入れた。
- ・ 早々にグループ園に就職が決まっている学生がいたため、クラスの意識が高まり、スムーズに就職が決まった。しかし、『早く就職が決まった』イコール『仕事が続く』ではないため、担任としては腰を据えて働いて欲しいと願っている。
 - ・ 保護者の個人面談を1年生の夏にしたのは、退学率の低減に大きな効果があったと思う。ただし、全員来校では無い為、可能であれば入学式のその場で学科別保護者会を行いたい。
 - ・ サイボウズの報告書を活用することにより、様々な教職員から協力を得ることができ、安心に繋がった。
 - ・ 卒業生の把握については、LINEなどのおかげで連絡が取りやすく、退職を考えていた卒業生を教員や元クラスメイトが説得して思いとどませたという出来事もあった。

② 今後の改善方策

- ・ 資格取得への熱意が冷める理由として、学習についていけない、実習先で自分の思い描くように動けない、コミュニケーションが取れないが理由として考えられる為、各学生に合った学習面の指導、実習中の精神的・技術的フォロー、行事やH.Rなどを活用した指導が必要。
- ・ 毎年3年生が行なっているボランティア実習の意義について、実習時間の増加を目的としているのか、社会や現場について見聞を広めに行くことが目的なのか、教員が考え直す必要がある。

③ 特記事項

特になし

(4-3) . 学修成果 (こども学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 ② 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 ② 1

① 課題

学生全体の傾向として、自主的に考え行動する力が乏しいと感じる。自分で考える前にすぐに聞く。答えを求める。指示されたことをしておけば間違いない、指示されたことしかしない、という姿勢が蔓延している。学修に対する姿勢も受動的で、積極的な意欲はあまり見受けられない。それは実習での評価にも直結している。

② 今後の改善方策

学校(教員)側が先回りをして手を施しすぎる点があるだろうが、それはそもそも、学生の学習意欲の低さが引き起こしているともいえる。上意下達的な授業実践ばかりでなく、保育職の魅力が伝わり、就職への意欲が湧くような実践的な授業づくりが必要と考える。これを教員全体で共通理解し、各々が研鑽していく必要がある。

③ 特記事項

担任教員のかかわり指導はもちろんのこと、実習内容の見直し、提携校の変更等があり、1年次の退学者数が年々減少していることは特記に値する。
H29 : 9名 (16%) → H30 : 3名 (6%) → H31 : 2名 (5%)

(4-4). 学修成果 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 ③ 2 1

① 課題

就職活動では保護者の意見が強く反映される傾向があり、仕事内容より求人条件が重視され就職活動がスムーズに進まないケースがある。

② 今後の改善方策

働くのは自分自身という視点で情報を提供し、保護者の意見を参考に自己実現を目指して考えられるようサポートする。

③ 特記事項

特になし

(5) . 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
・ 保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
・ 卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	3	2	1

① 課題

（ 上記項目の評価が「3」についても、より具体的な対応ができる体制づくりが望ましい。 ）

② 今後の改善方策

（ 特になし ）

③ 特記事項

（ 特になし ）

(6-1). 教育環境 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1

① 課題

教室にはプリンターが設置してあり学生が使用できる環境にある。しかし実際には提携している大学のレポートは指定の原稿用紙が薄いため紙詰まりし、教室のプリンターではうまく印刷ができない。学生自身でレポートの管理ができず教員任せにしてしまう雰囲気がある。学生で管理できる環境を整え、学習効果を高められるようにしたい。

災害が起こった際、大まかな避難の流れは把握しているが、非常勤が授業を担当している場合の動きや非常時の連絡体制など、実際の場面では戸惑うことが起こるのではないかとと思われる。また、地震の際に教室内で倒れる危険があるものもあり、防災に対しては環境整備が不十分と考えられる。安全の確保は学生の命を守るための最優先事項と思われる。また、電車を利用して通学する学生が多いため、災害の際は自宅に戻れず学校に留まるものが多くでることが予想される。学校に防災のための備蓄品があるとよいのではないか。

② 今後の改善方策

（プリンター機器の改善。
学校全体の防災体制の整備。）

③ 特記事項

（特になし）

(6-2) . 教育環境 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 ② 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

- ・ ネット環境が万全でないため、学生が授業で使用することができない。プリントアウトができず、レポートの度に無駄な時間を費やしている。
- ・ グループ園とは、連携を密にすることにより十分な教育体制が取れつつある。
- ・ 学校のセキュリティについて進行中。
- ・ 施設実習の事前指導として、施設を直接訪問できたのは大変学びになり良かった。
- ・ 施設見学の際、交流会を開催し、有意義な時間を過ごすことができた。学生の施設に対する疑問や不安を減らすことができた点も良かった。

② 今後の改善方策

- ・ 実習施設の教育体制については、まず教員が各実習施設と連絡を密にし、学生の状況を知っていただき、何を学ばせたいか（経験させたいか）をお伝えしたりして、より良い環境で実習できるよう努める。
- ・ 机上の学びだけでなく、現場の様子や声を学生に伝えられるよう努める。
- ・ セキュリティに関しては、昨今社会で起きている事件などを考慮し、学生の安全を守るための防犯カメラの設置することを検討中。
- ・ 震災や水害などの避難方法について普段から授業の中で取り上げるようにし、就職後の為にも学生自身の防災意識を高めていくようにする。
- ・ 防災や不審者対応のマニュアルを作成し、学生の目の届く場所に掲示する。
- ・ 教員自身が防災について学び、防災意識を高める。

③ 特記事項

特になし

(6-3) . 教育環境 (こども学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 ② 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 ①

① 課題

ネット環境とセキュリティシステムの慢性的な不具合。現代社会における教育環境として、上記2点の慢性的な不具合は致命的。学生・保護者の満足度を追求するなら、改善は必須。
毎年のように休校事案が発生するたび、学校全体のメールシステムがあった方が良いと感じる。

② 今後の改善方策

先行投資。

③ 特記事項

特になし

(6-4) . 教育環境 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 ② 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

教室でのインターネット接続及びプリンターの不具合が見られる。

② 今後の改善方策

安定したインターネット通信環境の整備が重要となる。

③ 特記事項

特になし

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

高等教育の修学支援新制度について、申請期間や準備などの面から今年度は申請を見送ったが、募集活動の中で数件の問い合わせがあった。この支援を必要としている方たちがいるので、次年度対象校となるための準備を進める必要があると考える。

② 今後の改善方策

高等教育の修学支援新制度について教職員で協力し整備を進めていく。

③ 特記事項

全学科「職業実践専門課程」の認定を受けているため、教育成果等をWeb上で適切に公開している。また、パンフレットやその他広報媒体制作時にも、適切な情報提供ができるよう努めている。

(8) . 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

在校生数の減少による収入の減少

② 今後の改善方策

学生募集の強化等

③ 特記事項

特になし

(9) . 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	②	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	②	1
・ 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

個人情報漏洩時の対策が未整備となっている。

② 今後の改善方策

個人情報の保護に関しては、研修会等を実施して、教職員の意識向上を図る。
昨年度、任意保険の加入を検討したが、未加入である。今年度、再検討する。

③ 特記事項

特になし

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

ボランティア活動に積極的なクラスと、一年を通して全く関与しないクラスがある。
ボランティアに対する担任指導の温度差がその理由ではないか。

② 今後の改善方策

・ 社会貢献、地域貢献とは何か、教職員が学生に説明できるようにならなければならない。
・ 人と関わりを持つことが苦手な学生に、実習だけでなく、ボランティアという形での関わり方を勧め、苦手の克服を目指す。

③ 特記事項

県内全域を対象に幼稚園教諭免許取得特例講座と保育士資格取得特例講座を実施した。
9月には校内で「こども祭り」を開催し、近隣の保育園・幼稚園、周辺地域から大勢の子どもたちが参加し楽しんでいった。

(11) . 国際交流 (必要に応じて)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4 3 2 1
・ 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4 3 2 1
・ 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4 3 2 1
・ 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 3 2 1

① 課題

()

② 今後の改善方策

()

③ 特記事項

()